

## 東京外語会主催 文化講演会

演題： ハングルの誕生——〈知〉の革命

講師： 野間秀樹氏 国際教養大学客員教授、前東京外国語大学  
大学院教授 <http://www.aurora.dti.ne.jp/~noma/>

日時： 2012年3月10日(土) 14~16時

会場： 東京外国語大学本郷サテライト



韓国の国立国語院ニュース・レ  
ター(2011年11月23日)より

### ハングルと〈訓民正音〉

ハングルは15世紀、朝鮮半島に生まれた文字体系の名称である。〈訓民正音〉略して〈正音〉と呼ばれた。

### なぜハングルが面白いのか

——普遍への契機としての〈正音〉

多くの文字に日常的に接している日本語圏にあって、ハングルを見ると、単にハングルという個別の文字体系を超えて、ひらがなやカタカナ、漢字、ローマ字などといった、様々な文字に思いを致すことになる。のみならず、ことばと文字、人間にとって文字とは何か、〈書く〉とはどういうことか、さらに〈知〉とは何かといった、巨大な問いの数々が立ち現れてくる。

### 15世紀、全ての〈知〉は漢字漢文であった

〈正音〉が創られた時空間はいかなるものであったろう。文字を知る人々、即ち士大夫たち知識階級にとって、文字とは漢字のことであり、文とは漢文のことであった。生まれて漢字で名を与えられ、漢字漢文で学び、漢文で友と文を交わし、詩を作った。科挙といった官吏登用試験は文字通り漢字漢文の権化である。王より死を賜るのも漢字漢文をもってであり、死してのち頌えられるのもまた、漢字漢文によるのであった。朝鮮王朝の全ての〈知〉は漢字漢文によるものであった。

### 〈話されたことば〉と〈書かれたことば〉の二重言語状態

〈書かれたことば〉の全ては漢文であったのに、士大夫にあっても〈話されたことば〉は朝鮮語であった。母語は朝鮮語であり、古典中国語たる漢文は学習して身につける言語である。知識人の全てが、こうした二重言語状態に置かれていた。基本的に、書かれた母語を誰も見たことはない。母語は〈知〉ではなかった。漢字で書かれた〈在〉や〈有〉は知であっても、日本語で言えば、存在論の根幹をなす「ある」などということばさえ〈知〉ではない。認識論の根幹をなす「知る」などということばは〈知〉ではなかった。そういった磁場に知識人は置かれていた。「仁」「義」「忠」「孝」といった、漢字で表しうる概念のみが、〈知〉たりえ、性理学のエクリチュールがその高みに君臨する。

### 世宗、文字を創る

こうした磁場に、朝鮮王朝第4代の王・世宗は挑んだ。朝鮮語を書くということを創始するのである。〈話されたことば〉としてのみ存在していた朝鮮語を、〈書かれたことば〉として創り上げる。いかにして? 文字を創製し、文を作り、テキストを組み上げ、韻書を編むことによって。この点で、ヨーロッパにおいてラテン語に対しvernacular が書かれた変革と決定的に異なっている。東アジア世界を覆っていた漢字のシス

テムを根底から覆す(文字体系を創出する)ことによって、この地の変革は開始されたのであった。〈正音〉の誕生と発展は、〈知〉の意匠たる文字ともども変革し、母語を〈知〉の中に組み込む(知の革命)であった。

### 文字自らが自らを語る書物としての『訓民正音』

文字は古来、石に刻まれたり、亀甲に刻まれたりして歴史に登場するものであった。〈正音〉は『訓民正音』解例本と呼ばれる書物によって公にされる。これは版木に刻され、紙に刷り、製本され、書物に編んで世界史の中に登場した。

そこには何が書かれていたのか? 〈正音〉はかくなる目的で創られた。〈正音〉はかくなる文字、かくなるシステムである。〈正音〉はこのように書く。乞い願わくは、〈正音〉を学ぶ者をして、師なくして自ら悟らしめんことを、などと漢文で書いてあった。

そしてこの漢文本を朝鮮語に訳した『訓民正音』諺解本と呼ばれる書物が著される。『訓民正音』は、〈正音〉はかくなる文字であるということ(正音)自身が描き出した書物、〈文字自らが文字自らを語る書物〉に他ならない。

### 出来事としての『訓民正音』

古来、あらゆる〈書かれたことば〉は、全体であれ断片であれ、全て過去の何事かについて書かれた歴史、常に過去に物語られた歴史、ヒストリーエHistorieである。ところが『訓民正音』という書物は、Historieとしてのみ存在するわけではない。『訓民正音』は、これを読むものにとって、常に〈いま・ここで〉、〈ことばが文字となる〉原初の瞬間を体験する書物でもある。曰く——/k/を表す字母の形は、/k/を発音する発音器官の形である。/n/を表す字母の形もまた/n/を発音する発音器官の形である。/k/の有気音/k'/を表す字母は/k/の字母に画

を加えることによりこれを表す。フがコとなる。等々。『訓民正音』は、その書物を繙くものにとって、〈ことばが文字となる〉原初が常に〈いま・ここで〉の出来事として生起する歴史、ゲシヒテ Geschichte である。

### 〈正音〉の四分法

〈正音〉は音節を、音の平面において〈子音+母音+子音+高低アクセント〉という4つの要素に解析し、文字の平面においてそれぞれに明確な〈かたち〉を与え、それらの〈かたち〉を総合するという仕組みを採った。例えば/pam/という音節であれば、/p/、/a/、/m/を表すそれぞれの字母は、ト、ロと、高く発音する音節であれば(傍点)一点を左に付し、(◦)のごとく表した。無点であれば低い、一点は高い、二点は低から高。これらの組み合わせで初めて1文字である。そこで抽出された子音と母音はほとんど、20世紀にいたって言語学が初めて到達した(音素)と呼ばれる要素であった。そして音の高低さえも単語の意味を区別するならば、それは必ず〈かたち〉にされねばならない。これが〈正音〉の思想であった。

### 王朝における正音革命派と漢字漢文原理主義との思想闘争

〈正音〉の創製と展開は王・世宗によって指導されたが、これにこぞって反対する士大夫たちがあった。漢字漢文原理主義とも言うべき、崔萬理たちの命がけの上疏でこれを知ることができる。崔萬理たちは〈用音合字〉ということばで端的に〈正音〉の本質をつかみ取り、そうしたシステムは〈尽く古に反す〉と王を諫めた。こうした言語学的な思想闘争が王宮の中で繰り広げられたのである。

王が遂行するのであるから「革命」などと言えない? それは違う。世宗が闘ったのは、朝



# 委員会から

## □ 会費問題特別委員会

新会費制度は皆様からのご協力を頂き予定通り4月1日からスタートしました。

当初から予想されたことですが、経過措置がいろいろあり完全に新制度に移行するには数年かかること(旧制度の下、終身会費の分納を選択された方が支払いを終えるまでには4年程度かかります)と、年会費の下での新会員加入促進キャンペーンが軌道に乗るには相当の期間を必要とすることから当面は会費収入の減少は避けられない見込みです。

外語会といたしましては、会員特別委員会を立ち上げ行方不明の卒業生探しと外語会員の加入促進キャンペーンを開始し、今年度の収支がマイナスにならぬよう努力を続けますが、かなりの苦戦が予想されます。

つきましては、誠に心苦しいことですが終身会費を払い終わった会員の皆様には、12ページにご案内しておりますとおり賛助会員としてさらなるご協力を賜りますようお願い申し上げます。 会費問題特別委員長 淡野武司(S昭39)

## □ 広報委員会

これまで、広報小委員会という名称の下、外語会リーフレットの作成や外語会ウェブサイトの運営を行ってまいりましたが、3月24日の理事会決定により広報委員会と名称を変更いたしました。

名前に負けないよう委員一同気を引き締めて業務に取り組む所存です。

外語会のウェブサイトはさらなる進化を続けています。第3次改訂により、入会申し込み画面や会員投稿画面が改善され、使い勝手がよくなっただけでなく、お知らせ画面も一覧性が向上しております。

いまのところ、外語会の広報は会報とHPが両輪となっております。それぞれに一長一短があると思いますが、HPの場合はリアルタイムで掲載が可能な点が取り柄と思っております。

会員の皆様の外語会に対するご意見や会員各位の近況などがブログ形式で投稿できるようになっておりますが、今回の改訂でPhoto Galleryを設けましたので大量の写真を展示することも可能となりました。ぜひご活用いただきたいと思います。

とくに語科別同窓会、サークル別同窓会、国内・海外支部の皆様にはHPの活用により個々の

組織内での広報に留まらず、外語ファミリー全体に対する発信をしていただければと願っております。また、個人的な投稿も歓迎しております。

広報委員会は今のところ小所帯ですが、もう少し委員の数を増やしたいと考えておりますので協力してやろうという意思のある方は事務局にご連絡お願い申し上げます。(月1回程度の会合とメールによる意見交換で運営しておりますのでそれほど負担になることはないと思います。委員の数を増やすのは、事務量が多いということではなくいろいろなお意見を反映させたいという観点からのものであること申し添えます)。 広報委員長 淡野武司(S昭39)

## □ 広告渉外委員会

広告渉外委員会の主要活動は会報へ掲載される広告を質量ともに充実させ、広告主、読者および外語会共通の便益を図ることにあります。

広告主は上場企業、個人企業、大学、大学同好会、任意団体など多岐に亘っており、多くの広告主に長期・定期的に広告を掲載して頂いております。これらの広告主の中からは広告の効果があつたと感謝の声を寄せてくださることもあります。また大学の性格上、卒業生の中には翻訳業や著述業をされておられる方が少なからずおり、ご自身の著作刊行物の広告を掲載される方もおられます。

広告渉外委員会は常時広告を募っておりますので、皆様のさらなるご支援・ご協力をお願い申し上げます。と同時に広報活動、特に会報に掲載する広告につきまして皆様の忌憚のないご意見をお聞かせくださるようお願いいたします。

会報に掲載されている広告は卒業生の方にも現役の学生さんにも幅広くお役に立つものとなっておりますので、ぜひ皆様がこれらの広告を有効にご利用、ご活用くださるようお願い申し上げます。

会報には毎月「東京外語会 広告募集」を掲載しておりますので、ご参照ください。詳細は広告渉外委員会(外語会事務局内)にお問い合わせください。

広告渉外委員長 川上直久(Po昭46)

## □ 就職支援委員会

学生への就職支援事業としての卒業生による「キャリア相談会」を昨年10月より2月迄実

施した。就職環境が益々厳しくなる中、学生の相談に対し十分な時間をとり、個別業界・会社についての質疑応答の他、各種キャリア相談があり経験談を含めきめ細かく対応した。

本年度も実施予定だが、採用環境が流動的な為その動向を踏まえ大学と協議して取り進めることとする。 就職支援委員長 糸賀絢佑(S昭43)

## □ 規則改定委員会

平成23年度は、平成24年度から導入される新会費制度に関わる会費規程の策定ほか、実態にそぐわない外語会規則の全面的な見直し作業を行った。

今年度も、外語会の事業展開に合わせて必要な規程の制定、実態に合わなくなった規則類の見直し作業を進めてゆく。

規則改定委員長 尾見和男(S昭39)

## □ 財務・経理委員会

～東外大の改革に就いて～

平成24年4月新たな時代を迎え、国家の長期戦略ともいえる「人材のグローバル化」に取り組む大学再編の狙いを実現する為、外語会として「何をなすべきか」ということを改めて認識する必要がある。外語会の目的は同窓生の懇親や、大学の目的・使命の達成に協力することであるが、大学支援のウエイトを高める視点が求められると考える。この期待に応えるためには強固なる財政基盤を確立して初めて可能となるものであります。

現状、外語会の収支は年間約2,000万円程度の固定費を要するが2009年大学の後援により施行された学生会員制度導入後収支に余裕を生じ大学支援が可能となっております。この状況を更に安定させる為、同窓生の幅広い層から、長期間の支援をいただく「会費制度改訂」を4月より実施することとなった。この際注意を喚起したいのは改訂の趣旨が浸透する間、収支のタイムラグが生ずることである(収入が流動的で支出が先行する)。

制度改訂の課題である会員増強策の手立ては講じつつあるが、同窓生全員の協力をお願いして実効を挙げねばならないと真剣に考えるものであります。

財務・経理委員長 斎藤 勉(I昭39)

## □ 事業委員会

1. 東京外語会寄付講義、変更点のお知らせ

6月15日の講師が、野吾ほなみ氏(Ma平成4年)日本貿易振興機構(JETRO)途上国貿易開発部アジア支援課長代理に変更となっております。

2. 東京外国語大学・東京外語会合同講座

(1)日時:6月14日～7月19日 全6回 各木曜日 18:30～20:00

(2)場所:本郷サテライト 3階教室

- (3)内容:「知られざるブラジルの文化と社会」
- 6/14 鈴木 茂(東京外国語大学教授)「映画に描かれたリオデジャネイロ」
  - 6/21 岸和田仁(日本ブラジル中央協会理事)「ブラジル文化論における1930年代、ハーン(小泉八雲)とブラジルの接点」
  - 6/28 黒澤直俊(東京外国語大学教授)「ブラジルのポルトガル語はポルトガルのポルトガル語とどこが違うか」
  - 7/5 森 和重(日本ブラジル中央協会常務理事)「双方向の日系移民問題」
  - 7/12 和田昌親(元日本経済新聞常務取締役)「ブラジルの世界一物語」
  - 7/19 武田千香(東京外国語大学准教授)「ブラジルの文豪マシャード・ジ・アシスの文学にみるブラジルの美学」

本講座は、文京区民大学連携講座として本郷サテライトのある文京区に在住または在勤の方を対象にしておりますが、外語会会員には聴講が認められております。申し込み際にはその旨お申し出ください。下期講座は10月開講を予定しております。

照会先:(公財)東京アカデミー学習推進係(03-5803-1119) ないしは文京区HP、東京外国語大学HP、東京外語会HP

## 3. 文化講演会

外語会会員を対象に土曜の午後、本郷サテライトにおいて年2～3回程度開催しております。今年は第1回目を3月10日前東京外国語大学大学院教授、野間秀樹氏をお招きし、「ハンガルの誕生—知の革命」と題して、朝鮮王朝第4代王・世宗(セジョン)が創製した朝鮮語の書き言葉<訓民正音>(後にハンガルと呼ばれる文字体系)の誕生にかかわるドラマを豊富な映像資料を駆使し語っていただきました。ご講演後のビールとおつまみ、お寿司を食べながらの立食パーティーも楽しく超満員の盛況でした。(講演内容については54ページ参照)

次回は7月7日(土)に東京外国語大学大学院今福龍太教授(文化人類学)をお招きして開講する予定です。(講演内容については84ページ参照)

皆様方のご参加を心からお待ち申し上げます。 事業委員長 山中輝雄(E昭43)

# 東京外語会会報

No.125

2012年6月1日発行



大学キャンパス内「東京外語会プラザ」のお披露目風景

「東京外語会プラザ」の常駐スタッフ、左から渡邊、田村、江田、鐘ヶ江

## 亀山郁夫学長卒業式式辞（全文）

【特集①】「学部改編に期待する」～卒業生からの熱いエール～

【特集②】「いまアジアは燃えている！」～アジアで活躍する卒業生～

巻頭エッセイ「シュタインベルグ先生の課外授業」東京大学教授 幸田 薫（D昭48）

海外体験・留学記「アフリカ大陸、ボツナワで働き、感じ、考え、学んだこと」山脇遼介（D平24）

「バルセロナ留学」立崎有衣子（S平24）

「人生を変える留学～フランスでの11カ月間」伊藤 圭（GA平24）

卒業生メッセージ「留学で得たもの」塩崎健太郎（C平24）

「『外交官プログラム』を受講して」渡曾隼人（C平24）

合同講座：「世界の言語と文化」シリーズ